

# 陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No22 2009.1.15

## 第三号(24年7月号)から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、今年で60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

## 「くじ」につかれた人々

くじ男というのがあらわれた。たてつづけに四百万円のくじを引き当てたというのである。第一回だけでよしておけばよかったものを、引き続き第二回目も当たったと言

れて、とうとう牛鍋か何かを奢らされている。幸運のくじどころか、とんでもない貧乏くじを引き当てたものである。しかし、くじ男は問題でない。金、金、金の泥沼から浮かび上がったあぶくにすぎない。見方によれば、世の中



の動きに禍いされた者の一人も知れない。それよりも、問題は社

会全体にある。

い出した。少しおかしいというので調べてみると、二十円きりしか当たっていない。

今、くじ男を笑っている人々も、この間まで、くじ男

何のために、そんな嘘をつくのか、訳がわからない。恐らく、くじくじと夢中になっ

を羨んでいたのではないだろうか。中には、幸福の神様のように思っ

ている間に、うっかり何かの拍子で当たったと言いだしたからたまらない。周囲から大騒ぎをされて、どうにも引

聞こうとしたり、金を預けてくじを頼んだりした者もあるという。その人達とくじ男の隔たりは、果たしてどれだけあると言え

だみがかなくなり、次から次と嘘を並べたのではないかと

思われる。友人達にせがまると、心が乱れる。それが粒粒

## わが家のお道料理

私どもの教会では、時々よそ様で作らぬような変わったものを食卓へ並べるので、皆様がり理の実、式などと申されて笑味して下さいます。野草の調理もその一つです。

アカザの胡麻味噌和え サツと茹でたアカザをよく水に浸しあく抜きし胡麻味噌和えにします。お皿に盛りつける時香り高い木の芽をみじん切りにして振りかけると野草とは思われぬ味わいです。

### 中華まんじゅう

メリケン粉をイースト菌で発酵させて蒸しパンを作りますが、その時中へ野菜の油味噌(玉ねぎ、人参、唐辛子粉、こま切れの肉少々入れる)を入れます。玉ねぎの代わりに萘や野びる等も用います。

### サンドイッチ

じゃが芋で芋あんを作り、やや多い目にパンに挟み、季節の野菜、例えば塩もみの胡瓜、輪切りのトマト等をそえます。また塩もみキャベツに生卵を入れてよく混ぜ合わせ、さらに夏みかんの実をほぐして混ぜたものを、添えてもよろこばれます。

(丸山とよ・理實分教会初代会長夫人)



年中是皆良日

カレンダーを見ると、日付のそばに「小寒」「大寒」などの二十四節気にあわせて「先勝」「友引」「先負」「仏滅」「大安」「赤口」と記されている。それぞれ良い日・悪い日の意味があり、冠婚葬祭では特に重要視される風潮がある。

仏滅の言葉から、てっきり仏教に関わりあるものと思っ  
ていたら、そうではなかった。  
インターネットの「フリー  
百科事典『ウィキペディア』」  
によると、この「六曜」は、  
中国から十四世紀の鎌倉時代

末期から室町時代にかけて伝わったとされる。第二次世界大戦後に爆発的に流行したとのこと。釈迦は占いを禁じているそうだし、親鸞は「日の吉凶を選ぶことはよくない」と説いていたという。

お道ではどうだろうか？  
教祖から、日の良し悪しについて、当時の高弟・高井猶吉先生がこのように教えていただいたという話が、『教祖の御姿を偲ぶ 改訂新版』(上村福太郎著 道友社新書)に載っている。

陽気楽しみをもって、こ

の世をはじめた。もののはじまりは一なるが故に、

- 一日 はじまり
- 二日 よきこと二つよせる
- 三日 とたつぷり
- 四日 みにつく身についてくる
- 五日 しやわせ
- 六日 りをふく
- 七日 六だいはじまる
- 八日 くにとこたちのみこと
- 九日 をもたりのみこと
- 十日 いざなぎのみこと
- 十一日 いざなみのみこと
- 十二日 くにさづちのみこと
- 十三日 月よみのみこと
- 十四日 なんにもいうことは
- 十五日 ない
- 十六日 八方ひろがる
- 十七日 苦がなくなる
- 十八日 九
- 十九日 十
- 二十日 十
- 二十一日 十
- 二十二日 十
- 二十三日 十
- 二十四日 十
- 二十五日 十
- 二十六日 十
- 二十七日 十
- 二十八日 十
- 二十九日 十
- 三十日 十

十日 十ぶん  
十一日 十ぶんはじまる

以下、同じく十ぶんの下に二から十までの文句をつづけてとねえること。たとえば、十ぶん苦がなくなるの如し。

二十日 十ぶんたつぷり  
二十一日 十ぶんたつぷりはじまる



以下、十ぶんたつぷりの下に、二から九までの文句をつづけてとねえること。たとえば、十ぶんたつぷり苦がなくなるの如し。

三十日 十たつぷり  
一月は三十日、三十日が十二あつまって一カ年、年中悪い日はないはずのこと――

一年、このような陽気な心で、喜び探して毎日を過ごすことができれば、喜びが喜びごとをつれてきてくれるかも知れない、と思った。

養徳社 よもやま話

○……お正月、家族でドライブがてら吉野の温泉へ向かった。車中でお正月の風習がなくなりつつあることを話しているうちに、しめ飾りをつけた車が何台すれ違つか教えることに。

ところが、それらしき車が来ない。二時間後、目的地に着いたが、ついに一台も見かけなかった。帰路、昔ながらの風習は消えうせたのかと主人が嘆いていたそのとき、私の「キヤーツ！」という叫び。あわてた主人が急ブレーキ。私が指さした先には、話題のしめ飾りをつけた車が……。「おまえはアホか!」。初夫婦げんかでした。

○……アメリカ東海岸、バージニア州にノーフォークという軍港がある。その公園に大きな吉野桜があつて、天理教から寄贈されたという銘があるという。桜の大きさから見ても、かなり古いものらしいが、誰が、いつ贈ったのか、これからナゾ解きを始めようと思つている。どなたか、由来(わけ)をご存知ありませんか？

広告を載せませんか

ようばくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで  
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社

『陽気』創刊60年 記念行事と企画

期間 平成21年1月号より12月号まで  
企画行事 創刊60年記念講演会 (4月25日)  
道柳のつどい (選者を囲んで懇親会・秋予定)  
本誌新企画 著名人による天理紀行(随時) 創刊60年記念懸賞小説募集 連載随想『天理今昔物語』(天理大学名誉教授・近江昌司氏)  
連載漫画『ひのき家の人々』(金巻とよじ氏) 再録・『陽気』60年(先人のおたすけ話など) 『陽気』と私(随時)  
出版企画 新刊本『お道の人の 心にのこる話』(仮題) 『道の八十年』(松村吉太郎著) 『人生に終りなしー柏木庫治を語るー』(東中央大教会編)

おかげさまで60年

『陽気』創刊60年の年(平成21年)に限り『特別購読料』でお読みいただけます  
ぜひこの機会に 身近な人にお勧めください

――創刊60年特別購読料――(1部送料共)  
半年分…1,300円 1年分…2,400円  
2年分…4,500円 3年分…6,500円  
4年分…8,500円 5年分…10,000円  
お申込は→☎0743 (62) 4503まで

『陽気』創刊60年記念講演会  
陽気な人生観  
藤本 義一 (作家)  
平成21年4月25日午後2時  
おやさとかた南右第2棟  
陽気ホール 養徳社 Tel. 0743 (62) 4503